

春の霞沢岳

記録 石川 誠

期日 2010年4月30日～5月3日 合宿別動として急遽計画

参加者 福沢卓三(61才) 石川 誠 (67才)

4/30日 快晴

横須賀 7:00 発・相模湖駅 10:00ー沢渡 14:00ー上高地 15:00ー 小梨平 15:20

相模湖駅で福沢君を乗せ中央高速で一路上高地へ、高速代 1,000 円の恩恵を受ける。

さしたる渋滞はなかったが、津久井湖あたりで多少詰まり気味であった。

沢渡の梓駐車場に駐車し、4人で乗合いし、上高地へ(料金は@1千円であった)。

今日の宿泊地小梨平でキャンプ(利用料@700円)此处での宿泊は長年穂高、槍への登山で初めての経験か? 夜から朝には岳沢下ろしと梓川からの風が冷たく、雪が舞い、朝積雪も見られた。

5/1日 快晴

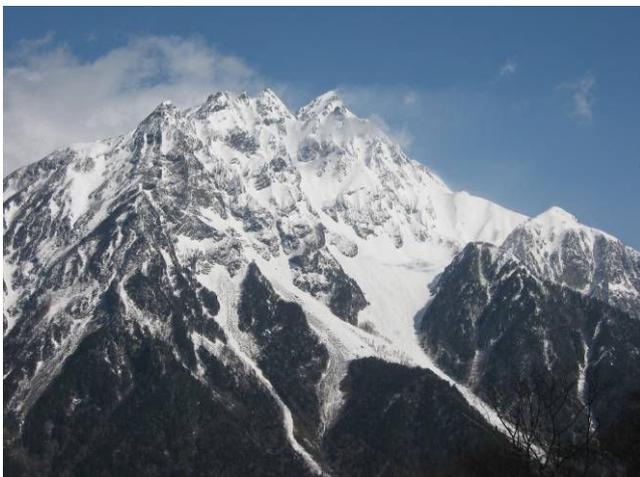
起床 4:30ー6:00 発ー明神 6:48ー徳本峠分岐 7:00ー稜線 10:15ージャンクション P13:15 着 (幕営)

登山者が動き出す頃我々も出発、明神から徳本峠分岐、ここから峠への道をのんびりと辿る、先行者が1人、トレースがあったが、途中で引き返してきた。小屋へのルートが判らず引き返すとのこと、我々は、直接稜線を目指して沢を上り詰める。振り返ると明神岳が屹立していた。

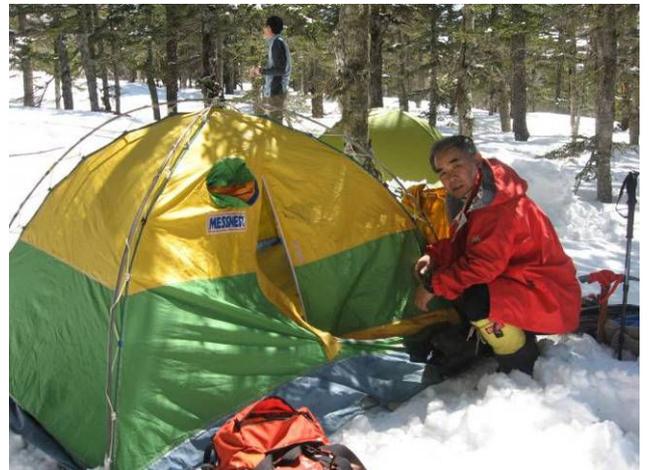
稜線からジャンクションピークを目指す。途中森林帯の中では一部急斜面ではトレースがないため、ストックだけの登高はいやしさを感ずる。

今日の宿泊地は樺、岳樺、樺などの高木樹林帯となり、視界は全然利かない。

隣には、静岡から来た屈強な若い単独行者がテントを張る。



(ラクダのコル・明神東稜・前穂高岳を望む)



(ジャンクション樹林帯の中の宿泊地)

5/2日快晴

テント 6:00 発ーK1下コル 9:15ーK1峰 10:15ー霞沢岳 12:10 着ーK1峰 14:00ーテント帰着 17:55

此处からK1峰への稜線は周りが樹林帯の為視界が利かず地図で霞沢沿いに稜線を辿る、単独行者は少し右よりの尾根を下りすぎ引き返してきた。我々は左端の樹林帯の中を進む、全然トレースもなく、標識らしいものも全然ないため、地形観察をしながら進む、所々に色落ちした古い標識を見つけながらK1峰への稜線が見通せる雪稜を辿る。

K1峰直下の雪面は急斜面で、ロープが欲しいところでもあった。頂上からは明神、前穂、岳沢など素晴らしい光景である。先行した静岡の登山者がいつまでも止まっているので先に行かないのか不思議に思っていたが、帰りのK1のくだりが心配で逡巡していたとのことであった。

又、霞沢岳への稜線でK1からの下りがアイスバーンでアイゼンのツアッケがやっと入るくらいの場所もあり、いやらしいトラバースを慎重に下り稜線を辿る。大きな声が聞こえたので後ろを振り向くとそのトラバースで4人パーティーの一人が滑落するのを目撃する。幸いロープでフィックスをかけていたので途中で止まったが、そのパーティーは、k1から引き返していった。

霞沢岳への稜線は、穂高、明神の稜線を見ながらの稜線散歩であるが、時折下の沢への急斜面に接してアイスバーンやアイ



(K1への登り)

ゼンがダンゴになり、不安定極まりない。稜線から八重門沢に目を転ざると、黒点2つ雪渓を登っている。頂上には昼過ぎに着いたが天気も良く周囲の山々、乗鞍、浅間など遠くの山々が見渡せ、春山を満喫する事が出来た。

下りも雪が腐ってきており、特にk1からの下りは後ろ向きとなって一步一步ステップを確認しながら慎重に下る。年のせいか行動が慎重にならざるを得ない。ロープをもっていればガンガン行きたいところだが。後はテント場までの長いトレースを登り返す。今日は、朝日に送られ、夕日に迎えられた長い1日でもあった。



(コルからk1、k2、霞沢岳を望む)



(もう直ぐ頂上へ・福沢君)

5 / 3日 快晴

J P テント6 : 45発 - 峠7 : 40 - 明神9 : 30 河童橋10 : 15着

今日はトレースの付いた樹林帯の急坂を一気に下る。朝アイゼンをつけていても、ストックでは心もとない、斜面でピッケルに持ち替え、徳本峠分岐点まで白沢を下る。続々と登山者が登ってくる。

中にはガイドらしき人に連れられ中高年のおじさんおばさんたちが登ってくるが、霞沢岳までだと時間的にかなり厳しいのではと思ってしまう。出合までの雪渓をひたすら下り、明神館の前に、ここにはもうハ

イカーの人達が多く屯し思い思いに写真を撮っている。猫柳の芽がもう直ぐ開きそうな様相である。

新緑の上高地までの道をのんびりと歩く。途中には梓川の流れの中に岩魚や鴨が泳いでいるのを見ながら。

上高地バス停でタクシー相乗りを一人見つけ沢渡まで、鎌倉の単独行者、当会のHPを紹介する。

車窓から中村、安部先輩の墓に黙礼し、渋滞前の帰路を急ぐ。



(霞沢岳からの穂高連峰)

今回の山行は、連休中全期間快晴になったのは8年ぶりとのことで、当会の北鎌尾根も十分に春山を堪能できたことだろう。



(K 1 ・ 六百山を通して岳沢・奥穂高岳)